

## 第 56 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日 時：平成 30 年 8 月 31 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

会 場：東北大学災害科学国際研究所棟 1 階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：四川大震災からの復興 その 10 年とこれから

### 1. 16:30-16:50 （発表 20 分）

タイトル：汶川大地震の災害パターンと援助実績の評価

話題提供者：雷振東 教授（西安建築科技大学建築学院常務副院長）

#### 発表要旨

汶川地震後の綿鎮市での地震救援、広元市での災害復興、陝西省と甘粛省の被害の大きな地域での軽量鉄骨住宅の建設などの報告を行い、災害地域における災害被害を分析し、市町村の被害の実態とその再建の問題、戦略について報告する。また汶川震災復興における一連の問題、特に震災後の外部からの援助の実績の評価を行い、最終的に地震後の外部援助の基本原則とその効率的なモデルについての指摘を行う。

### 2. 16:50-17:10 （発表 20 分）

タイトル：計画先行、政府主導、住民決定、市場参加—都江堰市都市再建の探求と実践

話題提供者：肖達 院長（上海同濟城市規劃設計研究院成都分院）

#### 発表要旨

2008 年の汶川地震は、千年に及ぶ歴史を持つ都江堰市に多大な被害をもたらした。当報告は、同濟大学が都江堰市の災害復興に参加した際の経験を踏まえ、都江堰市における災害復興計画、住宅の再建、古都としての復興の具体的な状況を包括的に紹介し、グローバル的な視点、歴史の継承の視点、また世論等を重視した計画立案とその実践手法について解説する。

### 3. 17:10-17:30 （発表 20 分）

タイトル：民意を基本とする都江堰市震災後の仮設と復興

話題提供者：彭萬忠 副院長（上海同濟城市規劃設計院成都分院）

#### 発表要旨

当報告では都江堰市を例にして、2008 年 5 月 12 日に発生した中国四川地震以来 10 年が経過した災害復旧の歴史を概観し、仮設住宅計画とその実施、災害後の復興計画とその実施課程を概括し、その計画と実施組織の実践と教訓を分析する。その上で、多様な災害に対する畏敬の念を持ちつつ、政治と市民が団結して官民共同建設の仕組みを確立し、勇気をもって決然と立ち向かい、かつ冷静に様々な災害に対処し、そして将来に希望を持つための積極的な防災手法のあり方について議論する。

### 4. 17:30-17:50 （発表 20 分）

タイトル：中国汶川地震被災地域における郊外型“農家楽”開発と新しい地理経済学的開発に関する調査研究

話題提供者：耿虹 教授（華中科技大学建築与城市規劃学院城市規劃系主任）

#### 発表要旨

当発表では汶川地震以降 10 年に及ぶ中国における農村開発手法の調査結果について報告する。再定住のための開発政策による「新しい地理的経済モデル」としての郊外の「農家集落整備（農家楽）」は震災地域における農村産業の変容と発展、すなわち農村

社会の効果的な発展や、産業と生態系の復元と地域の活性化をもたらした。この経済モデルは、中国の他の地域の郊外の「農家楽」とは異なる。四川省（汶川地震地域）、江蘇省、湖北省の郊外の「農家楽」の開発特性を包括的に比較すると、ビジネスモデルと開発の特性、空間的・時間的進化にいくつかの違いが認められた。東部地域（江蘇省）では、急速な都市化の下で、市場主導のスケールビジネスモデルによる農村のあり方が変化した。中部地域（湖北省）では伝統的な農村生活サービス産業を基にして、小規模な自営業が主となる農村の改革が見られる。西部地域、とりわけ汶川地震地域は、小規模で集落ベースの集合的ビジネスモデルという新しい経済的形態の政策主導の改革が行われた。このように郊外の「農家楽」は、「新しい地理的経済」の観点で見ると、それぞれの地域において上記のような違いがあることが判明した。

#### 5. 17:50～18:30 質疑／総合討論（40分）

司会・進行：岩田 司（東北大学災害科学国際研究所教授）

逐次通訳：岩田左紅（株式会社マイスタジオ代表取締役社長）